



行田の熱い夏を彩る 行田浮き城まつり

7月27日・28日の2日間、行田の夏を彩る「第20回市民祭・行田浮き城まつり」が開催されました。

平成6年から始まったこの祭りは、今年で20年目を迎えました。27日は天候不良のため途中で中止となりましたが、翌28日は天候にも恵まれ、NHK大河ドラマ「八重の桜」の八重と白虎隊に扮した行田浮き城まつり20回記念パレードや、よさこいソーランなどが披露されました。

そして日が暮れるころ、祭りはいよいよ最高潮に。毎年恒例の浮き城だんべ踊りでは、会場である国道125号を埋めた多くの踊り手たちの「ソーレ!」の掛け声が響き渡っていました。また、神輿渡御や5台の山車による激しいたたき合いも迫力満点。行田の熱い夏の夜を一層盛り上げていました。



スポーツで大活躍の小・中学生

8月5日、全日本中学ボウリング大会で優勝を果たした遠藤雅嵩さん(行田中学校2年)と、女子ソフトボール投げで全国小学生陸上大会への出場を決めた大瀧菜月さん(西小学校6年)が、工藤市長を表敬訪問しました。

工藤市長から「一芸に秀でることは大切。この経験をこれからの人生の糧にして、さらに活躍してほしい」と祝福の言葉を受けた2人。遠藤さんは「来年、2連覇を目指したい」、大瀧さんは「練習の成果を出せるよう頑張りたい」とそれぞれ力強く語りました。



すくすく成長しているよ

7月28日、辯天門樋ポケットパークで「第5回みんなべんてんもんびで育樹祭」が開催されました。

この催しは、昨年11月に行われた「いのちを守る森づくり『第5回みんなで植樹祭』」で植樹した苗木の成長の確認と、植樹箇所周辺の除草などを目的に行われたものです。植えるときはまだ小さかった苗木が、今では1メートル以上に成長。参加者は、自分の植えた苗木がすくすく育っていることを肌で感じていました。



「市内施設めぐり」で新たな発見

8月9日、市内の小学生を対象にした「市内施設めぐり」が行われました。

毎年夏休み期間中に開催しているこの企画は、市内に点在する施設を見学し、理解と認識を深めてもらうことを目的としたもの。この日は、市長室をはじめ、議場、産業文化会館など6カ所を見学しました。普段経験することができない体験に、子供たちは興味津々。新たな発見もあったようで、充実した一日を過ごしていました。



想定外の災害を想定する

8月3日、須加小学校裏利根川堤防で水防演習が行われました。

この日は、利根川が氾濫することを想定しながら、「土のう作り」や「木流し」、「月の輪」など8種類の工法訓練が行われました。緊張感を持ちながら、迅速かつ正確な作業を行う水防団員たちは、「想定外の災害を想定する」という意識をより一層高めていました。



食物アレルギーに対する知識を深める

7月30日、中央公民館第1学習室（「みらい」内）で、「食物アレルギー・アナフィラキシー対応研修会」が行われ、市内の小・中学校の教職員52人が参加しました。

この研修会は、近年、学校給食による食物アレルギー事故が多発していることを受け、アレルギーを持つ児童・生徒への対応方法などを学ぶことを目的に行われたものです。参加した教職員らは、行田市薬剤師会会長の鹿山高彦さんによる指導の下、医師による治療を受けるまでの補助治療剤「エピペントレーナー」の実演も行い、食物アレルギーに対する知識を深めました。



夏休みの思い出の1ページ

西小学校の児童を対象に、7月23日からNPO法人ふるさと創生クラブ（今村武蔵代表）による「夏休みふるさと子ども教室」が開催されました。特に人気だったのは、8月2日に西小学校のプールで行われたボート遊び教室です。

同クラブの皆さんにオールの漕ぎ方を教えてもらった子供たちは、ボートに乗り込むと大はしゃぎ。最初は、真っ直ぐボートを進めることができませんでしたが、イベントが終わるころには、他の友達と息を合わせてスムーズにボートを走らせていました。この教室が楽しい夏休みの思い出として、子供たちの胸に刻み込まれたことでしょう。

